DENSO

2026年夏山合宿山行報告書

報告者	舘谷	参加メンバー	CL　鈴木み 福岡、西川、鈴木よ、谷口、森下、田中、貴舩、根芝、舘谷(記)
報告日	8/20		
山域	北アルプス	山行日	2026/08/08~11
山名	赤牛岳など		
山行目的	部員のレベルアップ、部員相互の親睦		

配布先
集会：12
山行：1
ﾘｰﾀﾞｰ
原紙：集会担当者

ルート図





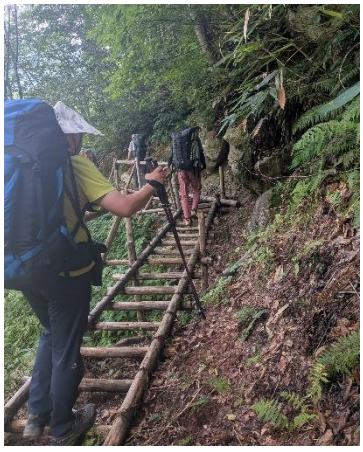
【山行報告】

＜初日＞8/8(土) 晴れ→雷雨→晴れ→雷雨【福岡 記】
8:30黒部ダム→8:55ロッジくろよん→11:55平ノ渡場・左岸→12:40平ノ渡場・右岸→15:30奥黒部ヒュッテ

7:00、扇沢駅に到着。アルペン号ですでに到着していた根芝と合流する。予約済みの8:30の電動バスにむけ、準備を整えつつ、1年越しの読売新道にむけた期待や、1、2日目の午後からの雷雨の予報への不安など、さまざまな思いを膨らませながら談笑する。1日目は樹林帯であり雷の危険は少ないが、2日目で稜線に出た後は逃げ場がないため、奥黒部ヒュッテや読売新道の途中での現地判断が必要である。なお、電気バスは、トロリーバスから更新されたばかりということもあり、観光客を含めて車内は混雑していた。

8:30黒部ダムを渡り切ってからは本格的な登山道へと入る。ロッジくろよんまでは良好な整備が行き届いた道が続いていたものの、そこからはアップダウンが繰り返されるやや狭め登山道となり、平ノ小屋の船着場を目指して歩みを進めた。

午後から雨が降るという予報が出ていたため、12:00発の渡し船に間に合わせようと少し急ぎ足で行動していた。登山道はダム湖に沿って等高となるように作られていたため、全体的に幅が狭目で、ダム湖まで高さ20-30メートルの場所が多く、ところによっては木の梯子がかけられていた。

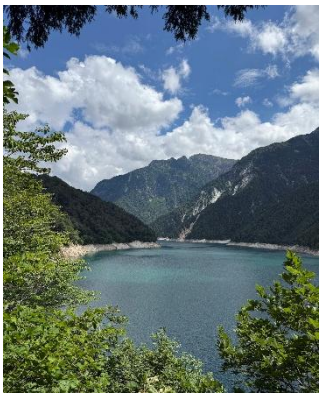

幾度となく現れる木の梯子

確認
(ﾘｰﾀﾞｰ)

作成
(報告者)

DENSO

船着場まであと少しというところで、メンバーの貴舩が登山道から滑落する事件が発生した。何事かと思った瞬間には、貴舩は登山道からすでに約3メートル下に落ちており、振り返った位置からは貴舩の体が見えなかった。幸いにもその位置にあったくぼみに引っかかって止まっていたようだが、湖畔までは20メートル以上の高さがあり、一歩間違えれば大事故になる危険な状況であった。登山道まで斜度はあったため、まずは貴舩にしっかりとした木を掴ませて安全を確保し、ストックを回収した上で、周囲のメンバーで補助しながらなんとか登山道へと引き上げた。現場はなんとかすれ違えるだけの道幅がある細い登山道だったため、後続のパーティに先に行ってもらいながら貴舩のザックを降ろし、まずは深呼吸をさせて落ち着かせた。足を少し挫いた様子が見られたため、根芝の手持ちのテーピングを巻いて応急処置を施した。一息して落ち着いたのちに再出発をしたが、貴舩は船着場まで落ち着かせた方が良いと判断し、貴舩の荷物をメンバーで分担して担ぐことにした。貴舩のザックは重量があったため、ここからは鈴木よが代わりに担ぐこととなった。それに伴い、鈴木よのザックは舘谷、谷口、福岡の3名で分担して船着場まで歩荷した。この連携により、なんとか12:00の船にはギリギリで間に合わせることができた。船を待っている間、姿が見えなかった森下も、途中で足を吊ってペースを落としていたものの無事に合流した。



黒部湖



船を待つ



渡し船 乗船中

渡し船は3人の船頭を含めて12人乗りのようで、一度に乗船できる登山者は9人に限られていた。先に行っていたパーティがいたため2往復分を待つことになり、我々も2便に分かれて乗車した。山の中で船に乗るという貴重な体験ができ、乗船中は水面が近くに感じられ、心地よい風を受けて素晴らしいリフレッシュの時間となった。

対岸の船着場に到着すると、今にも雨が降り出しそうな雲行きになってきた。そのため、パーティを二つに分け、テントの設営を急ぐために鈴木よ、舘谷、谷口、田中の健脚4名を「テント組」として12:30に先発させた。残りの6名は、先ほどの貴舩のアクシデントや森下の疲労を踏まえて、しっかり休憩をとり気持ちを落ち着かせたのちに、12:40に再出発した。奥黒部ヒュッテまでの道のりは、コースタイムで2時間ほどの行程であったが、木の梯子による激しいアップダウンが多く、想像以上に体力を削られることとなった。やがて予報通りに雨が降り出したため、一同はレインウェアなどを装着した。近くで雷の音も鳴り響いていたが、崖沿いの地形ということもあり、落雷の危険性は低く、また樹林帯であったため雨も大部分は防げていた。なお、対岸に見える稜線では雷雨が降り続いているようであった。



夕食会場



三色丼

後発組では、久々の山行となった森下が足を吊りやすい状態が続いており、何度かの休憩を挟みながら慎重に進んだ。しかし、ヒュッテへ到着する手前、最後の渡渉というところで森下が再度足を吊り、休憩が必要となった。この窮地に、先発してすでにテント設営を終えていた舘谷が空荷で道を戻ってきてくれ、森下の荷物を代わりに歩荷してくれた。このフォローのおかげもあり、15:30、無事に全員揃って奥黒部ヒュッテに到着することができた。

先に到着していたテント組は、我々よりも1時間以上早くヒュッテに到着しており、すでにテントの設営を完璧に終えて一足先に酒盛りを始めていた。後発組が到着した頃には幸いにも雨が上がったため、全員で外に出て改めて酒盛りを開始した。これまでの苦労を労い、各自で体を休めながら、なぜあれほど重かったのかと貴舩のザックの中身をみんなで見聞しつつ、楽しい宴の時間を持った。本日のおつまみとして谷口が網で調理してくれたチーズフォンデュは非常においしく、一同に大好評であった。さらに夜ご飯には、シェフ田中による特製の三色丼が振る舞われた。常温のそぼろ、錦糸卵、海苔をふっくらとしたアルファ米の上に乗せたどんぶりは、非常に美味しくいただくことができた。

電波は入らず最新の天気予報はわからないが、入山前に確認した翌日の天気予報でも午後から雨や雷が予想されていたため、行程中に落雷の危険が高い尾根をできるだけ早い時間帯に通過したい。そのため、翌日の出発時間を予定よりも1時間早めることを決定した。翌朝は3時起床、4時出発のスケジュールに備え、一同は18:30には早々と就寝した。

DENSO

＜二日目＞8/9(日) 晴れのち曇り【谷口 記】
4:00奥黒部ヒュッテ→10:40赤牛岳→13:30温泉沢ノ頭→14:45水晶岳→15:15水晶小屋

午後の天候悪化を懸念し出発を1時間ほど早め、3時起床、4時過ぎに出発。雨は止んでいるが昨晩の雨で湿度は高い。登山客のいない、静かな樹林帯の登山道を登っていく。登山道は整備されているがあまり歩かれておらず、怪しい部分もある。1時間置きに休憩を取り、3時間ほど登ったところでようやく電波が入り鈴木みCLが天気を確認。雷の予報は無くなり、15時から少雨という予報で一同安心する。


樹林帯を登る



朽ちた道標


森林限界を超える

植生が徐々に変わり、標高2400mくらいで森林限界を超え景色も良くなる。剱岳から立山、薬師岳への稜線が見事で、特に薬師岳の雄大さに感服する。10:40赤牛岳登頂。赤べこ帽子、読売新聞、レッドブル等の小道具を持ち記念撮影。雨で重かったテントを干して長い休憩をとる。11時過ぎに山頂出発し水晶岳を目指す。水晶岳は遠く、間にはピークがたくさん。徐々に無口になり文句も出てくるが無茶振りトークで気を紛らわし歩き続ける。14:45水晶岳登頂。南峰で集合写真を撮り、一部メンバーは水晶小屋トイレへダッシュ、15:15水晶小屋着。トイレも水場もないルートだったが、ちょうどよい気温で無事歩き切ることができた。

小屋にチェックインし、すぐビールで乾杯。小屋の晩ご飯は本格的な南インドカレーで、ご飯はおかわり自由。ご飯の後は夜喫茶タイムがありコーヒー、アイスクリーム、黒糖ミルクを楽しんだ。20時消灯、就寝。外は星が見え冷え込みそうだが、平らな床に掛布団、毛布2枚あるので最高だ。



赤牛岳山頂


歩いてきた稜線を振り返る


夕食の南インドカレー

＜三日目＞8/10(月) 晴れのち曇り【舘谷 記】
6:30水晶小屋→7:20ワリモ岳→8:05鷲羽岳（ここで先発隊分離）→
8:50-9:30三俣山荘→10:00三俣蓮華岳→11:00双六岳→11:35双六小屋

夜半、明るすぎる非常灯で目が覚めるが、物干しに手ぬぐいをかけてブロックし再度眠りにつく。1人分の横幅が50センチ強しかないテントと比べると広々とし快適な小屋で、みなよく眠れたようだった。4時には空が明るんできており、何人かのメンバーは外に出て写真を撮ったり山座同定をして過ごす。初日、二日目と比べると天気予報は良く、実際眼の前には雲一つない景色が広がっており、今日の行程に対する期待が高まってくる。5:30に小屋の朝食をいただくが、腸活を意識しているという発酵食品中心の献立は、前日のカレーに引き続き山小屋のものとは思えず、みな舌鼓を打った。

食事を終え、身支度を整え小屋の前で集合写真を撮り、6:30に出発。この日は双六小屋のテント場の混雑が予想されたため、途中で隊を2つに分ける計画であったが、序盤は10人揃って快晴の稜線を歩く。


夜明け前

DENSO


全方位の景色を楽しむ


稜線を歩く


鷲羽岳山頂

水晶小屋から少し下り岩苔乗越近くのコルを通過し、ワリモ岳に向かって登る。この辺りは黒部源流域で、初日はまだ湖や川だった黒部が最初の一滴にまでなっており、長く歩いてきたことを実感する。ワリモ岳は直下でちょっとした岩場を登り登頂、小休止する。一部メンバーは鷲羽岳へ登り返しにトラウマがあるようだったが、ワリモ岳から30分足らずで8:05鷲羽岳に到着、写真撮影を行う。読売新道は全メンバーが初めてであったが、この辺りまで来るとほとんどのメンバーが過去に訪れたことがあり、良い天気も相まってリラックスした雰囲気であった。

鷲羽岳からはテント場確保のため計画通り先発隊を編成（谷口、田中、舘谷）。以下、先発隊の記録となる。8:20に鷲羽岳を出発すると、30分強で三俣山荘着。奥黒部ヒュッテ以来の水場となり、頭を洗ったり体を拭いたり、ケーキや名物のサイフォンコーヒーなどをいただいている間に気がつけば40分が経過しており、あわや後発隊に追いつかれるところであったが、なんとか回避して三俣蓮華岳に向かって9:30出発。快晴で風も弱いので舘谷は日傘を差しながら登る。思わぬ（？）タイムロスを取り戻し先発隊の役目を果たすため、一所懸命に登る。10:00三俣蓮華岳登頂。


サイフォンコーヒー（美味）


三俣蓮華の反った標識


双六岳（後発隊）

三俣蓮華岳を出る頃に午前中の到着を確信し、そう急ぐ必要もないと少しペースダウンして歩く。丸山での休憩中にTJAR選手が通過し、声援を送る。11:00双六岳を通過し、11:35双六小屋到着。小屋で受付をし、双六池の近くにテント3張を幕営。テントサイトは暑いので、小屋の日陰でビールを飲んだり行動食や小屋飯を食べてのんびりする。暇なので後発隊の到着時間予想ダービーを開催、なんと舘谷が13:50のピタリ賞であった。合流してからは元気を持て余した一部メンバーが樅沢岳に登っていた。晩ごはんはフリーズドライのカレー。コンビーフとガラムマサラを加えたことで本格的な味わいであった。

三日目ともあってみな疲れており、18時を過ぎると眠りにつくメンバーも。ところが、放射冷却で冷え込んだ2,550mのテント場はシュラフカバーのみで眠るには気温が低すぎ、カミナドーム4では深夜にみなで火を囲み、ゆたんぽを作る一幕もあった。


夕食のカレー

＜四日目＞8/11(火) 晴れ【根芝 記】
6:00双六小屋→7:20鏡平山荘→10:00わさび平小屋→11:15新穂高

寒さでまんじりともせず朝を迎えた。厳しいルートなので軽量化に思い切りふったことが仇になった（寝具はシュラフカバーのみ）。しかし歩き始めると朝の風が爽やかで、槍を間近に望みながら気持ちよく歩く。1つ目の小屋、鏡平山荘。ここは朝から軽食営業をしている。かき氷を狙っていたが、寒くてクリームソーダに。コーヒーフロートも捨てがたかった。


クリームソーダ

次はわさび平小屋。大きな丸太をくり抜いた水槽に、きゅうり・トマト・バナナ・スイカ・ラムネなどなどが浮いている。わき水の流水で冷え冷えだ。ガンガン標高を下げてかなり暑くなっていたので、皆で歓声をあげて駆け寄った。きゅうりかトマトか最後まで悩んだが結局トマトに。でもやっぱり両方食べればよかった！誘惑に耐えきれずそうめんで〆。下山したら何を食べようかな。最終日ということもあり、終始和やかで美味しく楽しい下山だった。



わさび平小屋



下山完了！

【食料】
■初日（担当：田中）
〇夕食メニュー：鶏そぼろ丼、スープ
〇材料
・尾西アルファ米x10
・鶏そぼろ（業務スーパー）160g x4
・牛そぼろ（業務スーパー）160g x1
・玉九錦糸たまご　40g x10
・刻み海苔
・オクラ入りねばねば野菜のスープ（無印）x10
〇所見
2日目の読売新道の登りに備え、タンパク質が十分取れそうな鶏そぼろ丼をチョイスした。また、山で不足しがちな野菜類はフリーズドライのスープで補った。なお、錦糸たまごは記載の量の半分が適量と思われる。

■三日目（担当：西川）
〇夕食メニュー：カレー
〇材料：アルファ米とうもろこしご飯、フリーズドライカレー、コンビーフ、野菜チップ
〇所見
今回は基本お湯を沸かすだけでできるメニューが前提としてあり、3日目の食料担当のため、できるだけ軽量化するためフリーズドライカレーを選択。味気ない可能性を考え、コンビーフと見た目をよくする野菜チップを追加しました。ご飯も白米ではなくとうもろこしご飯にすることで、豪華にできたのではないかと思います。辛党のために追加したガラムマサラも好評で皆さまに喜んでもらい、食料担当としてとても嬉しかったです。

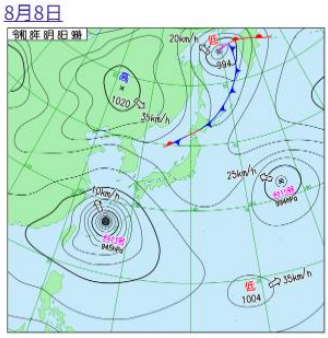
【装備】 担当：森下
長距離縦走のため必要不可欠なミニマムな装備構成にまとめられた。
改善点：カミナ4用フライの細引きが短すぎることで岩に結び付けられない問題が発覚。長いものに交換する。

■共同装備リスト
エスパース4人用: 1、カミナドーム4: 1、カミナドーム2: 1、小型コッヘル(1L程度): 3、バーナー: 3、ガス缶（S）: 3、おたま: 2、角盆: 3、ランタン: 3、ツェルト: 2、プラティパス: 3、ペグ: 3セット

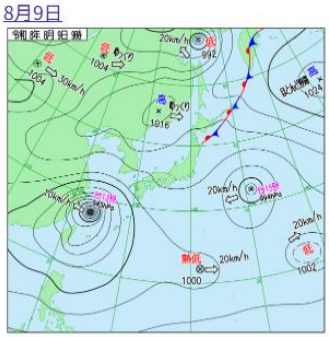
【会計】 担当:谷口
奥黒部ヒュッテテント: 2,000円/人
水晶小屋: 16,500円/人
双六テント: 2,000円/人
食費(1,3日目): 17,533円
車交通費: 39,273円/2台(燃料費、消耗費、高速代)
扇沢→黒部ダム間: 1,800円/人
扇沢～新穂高回送(アルペンキャリーサービス): 50,000円/2台
新穂高駐車場代: 5200円

【気象】

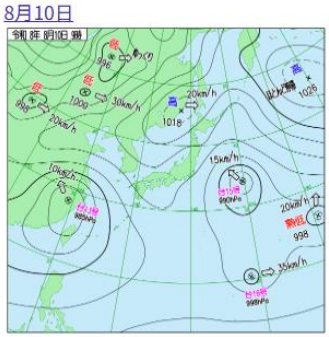
8月8日



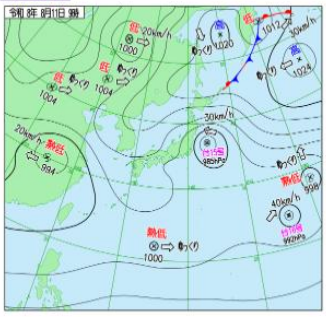
8月9日



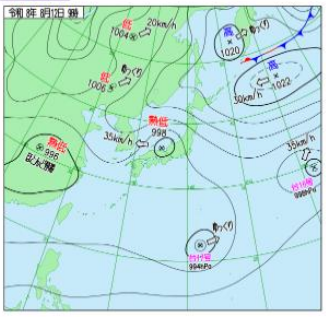
8月10日



8月11日



8月12日



https://www.data.jma.go.jp/yoho/wxchart/quickmonthly.html

【リーダー所見】 担当:鈴木み
初めての合宿CLで至らない点も多くありましたが皆さんにサポートしていただき10人全員が無事に最後まで歩き切ることができました。読売新道は長く厳しいルートでしたが、一人ひとりがそれぞれ思いやりを持って助け合うことができ、辛い場面がありながらも10人全員が4日間仲良く楽しく終えることができたことは登頂できたこと以上に達成感がありました。今回のCL経験で、時間管理や全員の状況を見ながら声掛け・判断をすることの大切さを教えていただき自分自身成長できたと実感しています。皆さんのおかげで忘れられない素敵な合宿となりました。本当にありがとうございました。

【メンバー感想】
■西川
2日目の赤牛への登りが核心だと思ってました。が、その後の水晶岳までの距離が長く、アップダウンも多かったため、ココが体力も精神力もかなり削られました。水晶小屋に着いた時ほど山小屋のありがたさを感じたことはなかったです。予想に反し天候も良く、今回の長い読売新道をこのメンバー全員で踏破できたことに感謝です。

■鈴木よ
読売新道ルート昨年は天候不順で中止だったため今回実施出来て良かった。予想通りに2日目の標高差、距離ともに厳しい山行でした。しかし、赤牛岳から双六山荘までの中2日間の稜線歩きは最高に気持ち良かった。今回10名という大パーティでしたが各役割をしっかり果たしまとまりのあるパーティだと思った。リーダーの美帆子さんをはじめ皆さんありがとうございました。

【メンバー感想】続き

■谷口

とにかく暑かった2023年の夏合宿を思い返して読売新道の登りの暑さに気を使っていましたが、程よい天候で良かったです。皆が憧れる歩きごたえのあるルートで満足し、三日間とも小屋に着いた後のビールがうまく最高でした。ありがとうございました。

■森下

初日の黒部ダムから奥黒部ヒュッテまでの行程は想像以上に厳しく、途中で足をつってしまいパーティに迷惑をかけたことが大きな反省点となった。今後はこまめな休憩や水分補給を徹底し、集団行動を乱さないよう意識して臨む必要を強く感じた。その反省を生かして挑んだ核心の読売新道では、補給とストレッチをこまめに行い、仲間の協力にも支えられながら赤牛岳・水晶岳を登り切ることができた。達成感と学びの多い、非常に印象深い山行となった。

■根芝

讀賣新道をなめていた！標高差1800mなんてよくやるし大丈夫でしょと思っていたが、かなり疲弊。福岡さんの神ペースで序盤から抑えめに抑えめに歩いたことが、最後まで何とか保った最大要因だと思う。みほこさんが手作りしてきてくれたあかべこ頭巾がめちゃくちゃ可愛くて、私の汗と涙をたっぷり吸ってくれた。感謝。

■福岡

天候に不安がある中で現地判断での開催でしたが、結果的に雨に降られたのは初日のみで、景色を楽しめる素晴らしい縦走路でした。一方で、メンバーの体調に十分配慮できず、滑落インシデントや吊るなどの不調を出してしまい、未熟さを感じています。また、雨の時は乾かすためにテント内に張り綱が欲しいと感じ、合宿や例会では張り綱を共同装備として含めることが吉と感じました。合宿全体としてはメンバにも天候にも恵まれ、楽しい合宿でした。ご一緒させていただいたメンバの皆様、ありがとうございました。

■貴舩

3泊4日という、自分にとっては過去最長の行程。装備・食料ともに熟考を重ねて臨みましたが、捻挫や滑落など反省点の多い山行でした。無事に完遂できたのは、リーダーの美帆子さんをはじめ、皆さんのサポートのお陰です。本当にありがとうございました。また経験豊富なメンバーの皆さんと行動を共にすることで、新たな知識や技術を吸収出来て良かったです。森林限界を越えてからの稜線歩きは絶景に次ぐ絶景でした。振り返ると歩いた軌跡を感じられ、感動もひとしおでした。

今回の経験と反省を次に繋げ、知識と力量の差を埋めながら、これからも安全に、そして楽しく山を歩いていきたいと思います。改めて、今回ご一緒いただいた皆さん、ありがとうございました。

■田中

去年、台風で中止になった計画。今年も悪天候予報で行けるかどうか不安でしたが、天気も好転し、黒部から新穂高まで歩ききれて感無量です。1人では諦めそうな道も仲間たちと登れば乗り越えられる、改めてそう感じた山行でした。最後に、同行したメンバーの皆さんありがとうございました。

■舘谷

前日に天気予報とにらめっこしていた割には概ね天気には恵まれ、赤牛岳へのタフな登りも楽しいメンバーで励まし合って無事突破し、中盤の稜線歩きはまさに山歩きの醍醐味といった素晴らしさで、文句のつけようのない合宿であったと、この報告書をまとめながら振り返っていました。色々アクシデントが起こりましたが、お互いにフォローし合って対応できたことは、部全体として自力がついてきた証拠なのではないかと思います。みなさんありがとうございました。